

令和3年度 第1回鯖江市行政評価委員会 会議録（要旨）

日時：令和3年11月29日（月）

19：00～21：00

会場：市役所4階全員協議会室

出席者：井上委員長、青山副委員長、上坂委員、千葉委員

鯖江市：長寿福祉課 掃部課長、大西参事、中條主事

農林政策課 徳橋課長、西森主事

事務局：総合政策課 田中課長、小竹参事、太田主事

## 1 開会（19：00～19：10）

1. 委員紹介…事務局より紹介
2. 正副委員長選出…事務局一任により、委員長に井上委員、副委員長に青山委員を選出
3. 外部評価実施手順…事務局説明
4. 外部評価対象事業抽出…事務局説明、委員了承

## 2 外部評価実施

### ① ひとり暮らし高齢者の集い開催事業（所管：長寿福祉課）

（19：10～19：55）

<概要説明>（中條主事）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員長：前年度はコロナの影響で中止はやむを得なかったと思う。事業の参加者について、新規と継続の内訳を把握しているのか。

所管課：参加者の内訳については把握していません。対象者は住民基本台帳でひとり暮らし高齢者を抽出（約3,000人）し、民生委員に訪問していただき、付近に親族がない高齢者を把握（約900人）して対象者に事業案内を行っている。

委員：事務事業評価の個票にもある「住民ニーズ」はどのように把握しているのか。

所管課：これまで把握していないことから、5段階のチェックは中間の値で入力しています。

委員：対象者のうち、事業に参加しない方が約600人いるので、もっと積極的に誘った方がいいのではないか。

所管課：参加しない理由は様々ですが、東部と西部は毎年違う会場（地区）で実施しているため、自分の住む地区以外だと外出するのが億劫になる傾向にあります。そのことから、10地区で行うことが理想的かと思いますが、そうすると、対象者が分散され

て参加者も少なくなるので事業が成立しないことが懸念されます。

委員：送迎を行っているかと思うので、半日旅行のような楽しい気持ちで参加していただき、参加者を増やしていただきたい。

委員長：この事業がきっかけで他の事業にも参加するのが理想だが、ここにしか楽しめる場所が無い人のゴールをどこに持っていくかが大切。そういった人に参加していただき楽しんでもらうということであれば年1回ではなく、何度か参加できるようにしてはどうか。

所管課：不参加に関する分析はこれまで行っていませんでしたが、不参加理由としては「参加する足が無い」、「こういった場が好きではない」などで、それ以外にも比較的若い人は親族以外との交流が活発なことから参加しない傾向にあります。

委員長：成果を参加者数としているが、事業の参加者が増えることが一概に良いとは言えないため、達成度ランクにこだわる必要はないが、対象者や不参加者の意味について改めて考えていただき、もっと楽しんでもらえる事業に仕立てていただきたい。また、年1回で終わらず、これがきっかけとして他のイベントにも参加できる仲間ができる機会の場にできればと思う。

委員長：予算的には「ひとり暮らし高齢者」でいいと思うが、私がこのチラシをもらったら「自分はひとり暮らし高齢者に見られてるんだ…」と寂しく感じてしまうがどうか。

委員：同感です。「高齢者」というワードも今の人は若いのであまりいい気がしないと思うので受けての気持ちを考えてチラシを作成していただきたい。

委員：これから年を重ねても一緒に歩いていける仲間が見つかる場になればと思うので、対象者で参加する人が増えればいいなと思います。

#### <方向性判断>

委員長：次年度はコロナ禍から立て直す時期だと思うため、事業自体は「維持」となるかと思うが、中長期的な視点で改善すべき点が見受けられるため、「事務改善」にすべきではないかと思うがどうか。(委員一致)

#### 付帯意見として

- ・案内するチラシについて、「ひとり暮らし」や「高齢者」といった文言を使用しないなど、対象者に寄り添った工夫をしていただきたい。
- ・参加者の分析を行い、事業のゴール地点を見極めたうえで、対象者や開催場所、実施回数を検討していただきたい。
- ・参加者数が多いことが成果とは限らないと思われる。行政と市民の考えが必ずしも一致するとは言えないため、住民ニーズを把握していただきたい。

## 2 外部評価実施

### ① さばえエコ農業支援対策事業（所管：農林政策課）

（20：00～20：45）

<概要説明>（徳橋課長）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員長：追い風との説明は、国が補助事業を拡充する動きがあるということか。

所管課：国の補助事業については縮小にシフトしています。具体的には、令和3年度から交付単価10a当たり8千円から6千円に減額しており、特別栽培米を辞めるという声もあるが、国は地球温暖化の防止や生物多様性の保全を目的に協力を求めています。

委員長：補助要件の中に地域特認というのがあるが、鯖江市として独自に付け加える取組みはあるのか。

所管課：本事業は県が地域特認を行いますので、本市で付け加えることはできませんが、鯖江市の単独補助事業を行うことは可能かと思います。例えば、県の地域特認で環境負荷減を目的としてバイオ炭を10aあたり50kg以上活用した場合に5千円を助成する取組みがありますが、資材費分しか賄えないので、手間賃を本市で補助するなどです。

委員：本事業を農業者自身がやるメリットがよく分からない。有機栽培だと付加価値に繋がることも分かるが、カバークロックや冬期湛水による付加価値が見えないため、消費者へのアピールが確立されていないように思う。そのことから、補助制度が無いと農業者自身に取り組めないのではないか。

所管課：ご指摘のとおり、有機栽培のように商品の価値を消費者に伝えて理解してもらうことで、収量が少なくても高くても買ってもらえるようなブランドイメージを作る必要があります。 ※例：永平寺町のれんげ米など。

委員長：鯖江市はSDGsやゼロカーボンシティに取り組んでいるため、消費者にアピールする際には農業のみならず、それらの取組みと結びつけることで、農業視点だけではなく、鯖江市全体のイメージとして広くアピールできるのではないか。

所管課：国の方でも、エコ農業に取り組んだ場合の地球温暖化効果を示しています。

委員：1つの圃場で複数取組みを行っている場合もあり、この取組みは農業者にとって大変な労力を必要とするため、今後もこういった支援制度は継続していただきたい。

委員長：この事業は個人も対象となるとのことだが、制度の周知がどの程度されているのか。取り組んでいても申請していない農業者がいるのか。

所管課：JAや生産者説明会、認定農業者に直接制度案内を行っていますが、新たな農業者には広報誌で情報収集していただくことになる。

委員：農業に従事している方は、この事業に無関心だと感じているがどうか。

所管課：自家消費目的で生産して余った分を農協に出す農業者にとってはこの事業に取り組む意欲がないと思っているので、そういった農業者にも関心を持ってもらえるかが課題。

委員：農業者自身も高齢者が進んでいるので現実的に難しいのでは。

所管課：農林業センサスによると、市内農業者の平均年齢が70.5歳であり前回の調査時から更に高齢化が進んでいるので、後継者に繋げることが大切だと思っているが課題も多く、大規模農業者や新規就農者へ農地を集約することを進めている。

#### <方向性判断>

委員長：本事業は国の枠組みと県の役割が主となるため、鯖江市としてできる大きな工夫は難しいと判断して、特に異論がなければ、市として内部評価同様、「維持」で良いか。  
(委員一致)

#### 付帯意見として

- ・今後の農業全般に関する大きな課題や変革がある中で、本事業に留まらず、これからの農業の在り方や方向性について広い視点で検討していただき、その一環として本事業を位置づけ、成果が得られるよう主体的な対応をお願いしたい。
- ・消費者に対するPRについて、鯖江市が推進するSDGsやゼロカーボンシティと結び付けるなど、付加価値を高められる手法で行っていただき、農業者自身がメリットを感じて取り組める事業にしていきたい。
- ・この事業に取り組むには大変な労力を必要とするため、より多くの農業者が取り組めるよう、農業者目線に立って不足している部分を分析し、必要とあれば主体的な支援を検討していただきたい。

### 3 閉会 (20:50~20:55)

委員長：次回開催は、12月6日(月)19時から市役所4階全員協議会室。